

## 「パウロ、総督フェリクスへ護送される」 2016年09月13日

使徒言行録 23章 23節～35節 千人隊長は百人隊長二人を呼び、「今夜九時カイサリアへ出発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、補助兵二百名を準備せよ」と言った。また、馬を用意し、パウロを乗せて、総督フェリクスのもとへ無事に護送するように命じ、次のような内容の手紙を書いた。「クラウディウス・リシアが総督フェリクス閣下に御挨拶申し上げます。この者がユダヤ人に捕らえられ、殺されようとしていたのを、わたしは兵士たちを率いて救い出しました。ローマ帝国の市民権を持つ者であることが分かったからです。そして、告発されている理由を知ろうとして、最高法院に連行しました。ところが、彼が告発されているのは、ユダヤ人の律法に関する問題であって、死刑や投獄に相当する理由はないことが分かりました。しかし、この者に対する陰謀があるという報告を受けましたので、直ちに閣下のもとに護送いたします。告発人たちには、この者に関する件を閣下に訴え出るようにと、命じておきました。」

さて、歩兵たちは、命令どおりにパウロを引き取って、夜のうちにアンティパトリスまで連れて行き、翌日、騎兵たちに護送を任せて兵営へ戻った。騎兵たちはカイサリアに到着すると、手紙を総督に届け、パウロを引き渡した。総督は手紙を読んでから、パウロがどの州の出身であるかを尋ね、キリキア州の出身だと分かると、「お前を告発する者たちが到着してから、尋問することにする」と言った。そして、ヘロデの官邸にパウロを留置しておくように命じた。

千人隊長は最高法院を招集させ、パウロの罪状を取り調べようとしたが、議会は混乱し、パウロを巡る騒動の真相を掴むことができなかった。荒れた議会からパウロを保護するために、千人隊長は兵舎に連れて行った。ユダヤ人たちのパウロに対する怒りは大きく、暗殺するまでは断食するというグループがあることが千人隊長に告げられた。千人隊長は、ローマの市民権を持つパウロを何としても守らなければならない。そして、市民権を持つ者に関する扱いはローマの総督の専権事項である。千人隊長はパウロをカイサリアにいる総督フェリクスの下に護送することにした。彼は百人隊長を2人呼んで、歩兵200名、騎兵70名、補助兵200名を準備せよと命じた。パウロ一人を護送するためにローマ兵を合計470名をも準備させた。ユダヤ人たちのパウロ暗殺の固い決意を知り、市民権を持つ者を保護しなければならない千人隊長の恐れが、これほどの兵士を集めさせたのである。彼は総督フェリクスへ手紙を認めた。手紙の要点は5点である。①パウロはローマの市民権を持つ者で、総督の裁判権の元にある。②パウロを殺そうとするユダヤ人たちから守ることは、ローマの主権行使である。③パウロが告発された理由は、ユダヤ教内部の律法問題である。④ローマ法によると、パウロはいかなる犯罪も犯していない。⑤告訴したいユダヤ人たちに総督に訴え出るように命じた。

470人の兵士たちは命令通りパウロを引き取って、夜のうちに出発し、アンティパトリスまで連れて行き、翌日、騎兵たちに護送を任せて兵営へ戻った。騎兵たちはカイサリアに到着すると、手紙を総督フェリクスに届け、パウロを引き渡した。

総督は手紙を読んで、パウロの出身州を尋ねた。キリキア州の出身だと分かると、「お前を告発する者たちが到着してから、尋問することにする」と言った。そして、ヘロデの官邸にパウロを留置しておくように命じた。